

地下鉄短信 (第476号) 令和3年3月12日発行

編集 (一社) 日本地下鉄協会 責任者 内藤 富二夫
電話 03-5577-5182(代) FAX 03-5577-5187



記事 : 「地下鉄施設の保守、維持等に関する研究会 (第16回車両部会)」を開催

◆「第16回車両部会」を開催しました。

3月10日(水)に、当協会9階会議室において、東京メトロをはじめとする10事業者の車両設備の設計や保守管理等に携わる22名の参加を得て、「第16回車両部会」を開催しました。

今回は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、対面・集合形式の開催が困難なことから、当協会においてもオンライン形式の会議システムを導入することとし、対面・集合形式とオンライン形式を併用し開催しました。

1. 研究テーマの発表**(1) 「車両検査の周期延伸」**

車両検査の周期延伸は、省令等で定められている地下鉄車両の重要部検査及び全般検査の周期について、現行の「4年又は走行60万キロ及び8年以内」を超えて実車走行試験を行い、この試験結果を評価することで、検査周期を、「重要部検査にあつては、5年又は60万キロ」に、「全般検査では10年」に延伸することができます。これらに取り組むことで、車両保守に係るコストの縮減が図れることから、平成23年より

(公財)鉄道総合技術研究所の支援を得ながら、制約因子、走行試験、評価方法、国への手続き等について研究を進めています。

今回は、リニア地下鉄における車両検査の周期延伸に、共同事業として取り組んでいる横浜市、神戸市、福岡市を代表し、横浜市から、取組状況の経過報告がありました。

いずれの社局においても試験車の走行試験等の結果が良好であったことから、今後、各地方運輸局へ「重要部検査周期延伸(4年→5年)」の届出を行う予定であるとの報告がありました。

また、先行してリニア地下鉄以外の車両で検査周期の延伸に取り組んでいる大阪メトロ、横浜市、仙台市から、周期延伸終了後の状況について説明があり、各社局ともに概ね順調に進行している状況が伺われました。

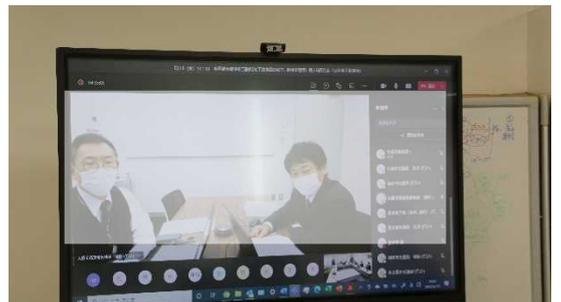


9階会議室での会議の状況

(2) 「各社局の車両設備が抱える課題」

前回から各社局の車両設備が抱える課題への対応を共通テーマに取り上げ検討することとしていますが、今回は、昨年度に取り上げた各テーマについて、現在の検討状況について発表いただきました。

また、発表後の質疑応答では、各社局から各テーマに対する意見や取組事例などについて説明等があり、テーマ選定社局固有の課題というよりは、各社局に共通するものであることが再確認されました。



オンライン参加の状況(PC画面)

◆今回の発表テーマと発表社局

No.	発表テーマ	発表社局
1	①空調による車内臭気について	東京メトロ
2	②車両洗浄時の洗浄水について	
3	③鉄道分野における国際調達への対応	名古屋市交通局
4	④車両更新基準（廃車基準）の考え方	福岡市交通局

次回の車両部会では、各社局共通の課題である研究テーマをアンケート形式で調査した上で、その結果を踏まえ、研究を深度化する予定です。

2. 「各社局からの情報提供」等

各社局から新型コロナウイルス感染症への対応状況ほか、新型車両の導入計画等について報告いただき、最後に当協会から来年度の部会活動の予定について説明し終了しました。

今回の研究会は、対面・集合形式とオンライン形式を併用し開催しましたが、普通の対面・集合形式と異なり、参加者がお互いの顔を見ながら会話することが出来ず、参加者相互の意思疎通が図りづかったことや、議事進行に時間を要することがありました。

今後、参加者にアンケートを行い、得られた回答をもとに次回のオンライン会議がより良い状況で開催できるように改善に努めたいと思います。

(注) 必要に応じ、社局内へ転送、回覧などをお願いします。

配信先を変更又は追加した方がよい場合は、新しい配信先の職名、氏名及びメールアドレスをお知らせください。

また、本短信について、ご意見をお寄せください。

連絡先： naitou@jametro.or.jp